

## 平成 22 年度 第 2 回認知症地域支援体制構築等推進会議経過報告（御浜町）

## ● 具体的な取り組みについて

※ 第 1 回目以降の取り組み状況についての報告

## 1 地域住民の認知症に対する理解に向けて

## ◆ 認知症サポーター養成講座の実施

これまで、郵便局、金融機関、商工会、学校、病院、役場、介護保険事業所等、様々な機関において養成講座を実施してきたところである。事業開始時の目標であった 400 名は、昨年度の早い段階で目標を達成し、年度末までには 700 名を超えている状況であった。

今年度は、これまで学校関係では 3 つの中学校の内 1 箇所だけが継続して講座を実施しているだけであったため、他の 2 カ所の学校にもアプローチを行い、各々実施していただくこととなった。また、消防職員にも 2 回に分けて実施し、地区住民に対しては徘徊模擬訓練に合わせて呼びかけを行い実施する。

団体名等	実施日	実施場所	参加者数
尾呂志学園（中学生）	平成 22 年 10 月 25 日	尾呂志学園	33 名
阿田和中学校 3 年生	平成 22 年 12 月 7 日	阿田和中学校	24 名
阿田和中学校 2 年生	平成 22 年 12 月 9 日	阿田和中学校	23 名
阿田和中学校 1 年生	平成 22 年 12 月 10 日	阿田和中学校	32 名
御浜中学校 1 年生	平成 23 年 2 月 3 日	福祉健康センター	59 名
熊野市消防本部御浜分署 1	平成 22 年 10 月 13 日	消防署御浜分署	9 名
熊野市消防本部御浜分署 2	平成 22 年 10 月 27 日	消防署御浜分署	4 名
志原地区住民	平成 22 年 11 月 9 日	志原公民館	13 名
神木地区住民	平成 22 年 11 月 11 日	神木公民館	30 名



集合して記念撮影



子ども達も寸劇へ参加



グループワークと発表



消防署での様子

## ◆ 情報誌の発行

今年度は 3 回、地域包括支援センターからの包括だより「みろバ」を発行。包括の活動や認知症に関する情報、最近多発している悪徳商法や詐欺の手口について、国民生活センターから配信されている情報等を、登録していただいているサポーターや民生委員に送付。

## 2 専門職の「認知症」「認知症ケア」に関する専門知識の習得、理解に向けて

### ◆ 認知症ケースの事例検討会を開催

地域包括支援センターの事業の一環で、昨年度も実施しているが、熊野包括、紀宝包括と共催で、居宅のケアマネジャーを対象に参加希望者を募り、認知症ケースの事例検討会を実施。



7月13日、10月13日の2回実施。

2グループに分かれて、各グループ2ケースの事例を継続して検討する方式で実施。

### ◆ 事業所別研修の開催

介護保険サービス提供事業所を対象とした事例検討会であるが、社会福祉協議会と老人保健施設の2カ所で行なった。それぞれの事業所に出向いて、2回に分けた継続型の検討会とした。ただし、社会福祉協議会の検討会では、1回目を訪問介護事業所と通所介護事業所を各々別々に行い、どちらにも居宅介護支援事業所のケアマネも参加し、2回目の検討会では訪問介護、通所介護、居宅介護、3者合同での検討会として行なった。

団体名等	実施日	実施場所	参加者数
御浜町社会福祉協議会(訪問)	平成22年 6月24日	福祉健康センター	9名
御浜町社会福祉協議会(通所)	平成22年 6月21日	福祉健康センター	9名
御浜町社会福祉協議会(合同)	平成22年10月14日	福祉健康センター	14名
老人保健施設 きなん苑	平成22年 8月26日	きなん苑	7名
老人保健施設 きなん苑	平成22年12月 9日	きなん苑	5名



－ 検討会での様子 －

### ◆ 医療機関との連携について

三重大大学の寄附講座（認知症医療学講座）から紀南病院に、月1回の割合で神経内科「もの忘れ外来」が開設された。月1回の診療ということもあり、有効的に活用できるような関係づくりが必要であり、医療、福祉が連携強化できるようにということでケアマネジャーと医師とをつなぐための研修会を開催。

利用者が受診する際に、医師がどのような情報を必要としているのか、また、逆にケアマネはどのような情報がほしいのか、お互いの情報交換も含めた形で、もの忘れ外来の佐藤医師から「もの忘れ外来とケアマネ、医療と福祉の連携について」と題して研修会を開催した。

◀ 開催日：平成22年10月15日（参加者：40名）／会場：御浜町役場くろしおホール ▶

### 3 地域の見守り体制の強化を目指して

#### ◆ 地域資源マップの作成

町内全域を対象とした地図の資源マップに、認知症に関する内容や資源となる制度等の情報を加え、冊子形式にしたものを作成。町内の医療機関や介護保険事業所だけでなく、郵便局等にも配布して、誰もが気軽に手に取れるようにする。

#### ◆ 地域の見守りボランティアの促進

昨年度からの取り組みの中で見守りシステムを構築し、見守りボランティアとして民生委員を核に、高齢者見守りサポーターや配食ボランティアを中心に、認知症等で地域との関わりが少なくなってきた高齢者宅を、配食等も含めて何らかの形で月2回程度訪問していただくようにしている。調整等については、ボランティアセンターを中心に行っていただき、個別の相談対応については地域包括支援センターに連絡が入り、関係機関と連携した対応を行なうこととしている。また、見守りボランティアの資質向上も含めて、傾聴ボランティア技術を身に付けられるよう、研修会を3月に開催する。

#### ◆ 徘徊模擬訓練の実施

昨年度に構築した徘徊SOSネットワークシステムを基に訓練を行なうことで、実用的なシステムとして活用できる様、模擬訓練を行なうこととしている。昨年は尾呂志地区において訓練を実施しているので、今年度においては神志山地区（神木地区と志原地区）での訓練を行なった。

訓練は、実際に相談の電話がかかってきたことを想定して、担当部署内の情報伝達と協力機関にFAXを流す訓練と、徘徊役の職員が実際に地域を歩いて声を掛けてもらったり、役場へ情報を提供してもらった訓練をあわせて行なった。また、徘徊する地域の住民には、事前に認知症サポーター養成講座の受講を自治会から呼びかけ、自治会と協働する形で訓練を実施した。（別紙参照）

《開催日：平成22年11月11日》

### 4 家族支援の体制について

#### ◆ 認知症介護者のつどい・交流会の開催

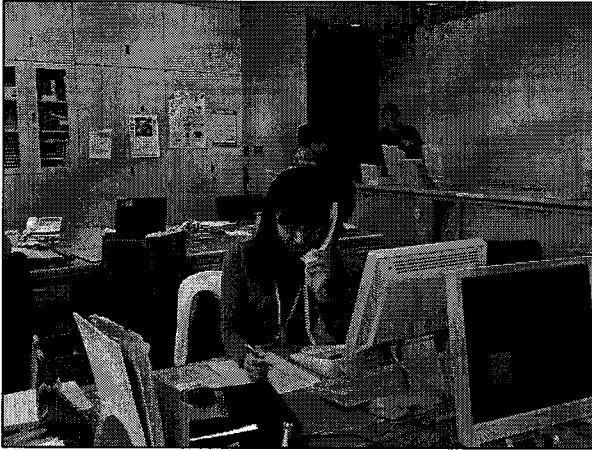
「認知症家族の会 三重県支部」と共催で、年4回つどい・交流会を開催。

なかなか参加者が増えない現状もあり、ケアマネや民生委員、ボランティア等にも内容を知っていただくためのミニ講演会を行ったり、病院を通じての呼びかけを行ない、個別相談も受け付けられるようにするなど、様々な形での家族への呼びかけを行なっている。

#### ◆ 事業所とのタイアップした家族会支援

同じ事業所を利用しているという仲間意識もあり、参加しやすいのではないかとということで、昨年度事業所別研修を実施していただいたデイサービス事業所と協働で、利用者がデイを利用中につどい・交流会を開催。事業所の管理者も参加したため、事業所に対する苦情の様な話も出なかったが、「最初は参加しにくいのかなと思っていたが、同じような苦勞をしている家族がいるということが分かり、とてもよかった。」との感想もいただき、管理者からも「あらためて家族の思いを知ることが出来てよかった。」と言っていたので、今後も他の事業所とも話をしながら、家族が思いを話せる場づくりに努めていくこととする。

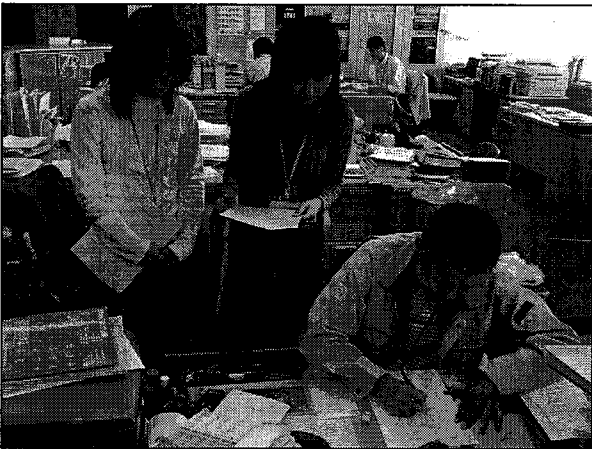
## 第2回 徘徊模擬訓練での様子



① 相談を受けている様子



② 高齢者担当に報告  
③ 区長、民生委員、紀南病院へ確認



④ 総務課へ報告



⑤ ネットワークを使ってFAX  
⑥ 警察・消防へ事前情報の提供



⑦ 防災無線による呼びかけ

FAXが届いた事業所では、内容を確認し、各々の事業所の伝達体制で情報の確認をしていただき、その伝達方法や伝達に要した時間などを記録していただく。  
記録をしていただくことで、事業所内の伝達訓練としても活用していただく。

志原地区の徘徊している様子



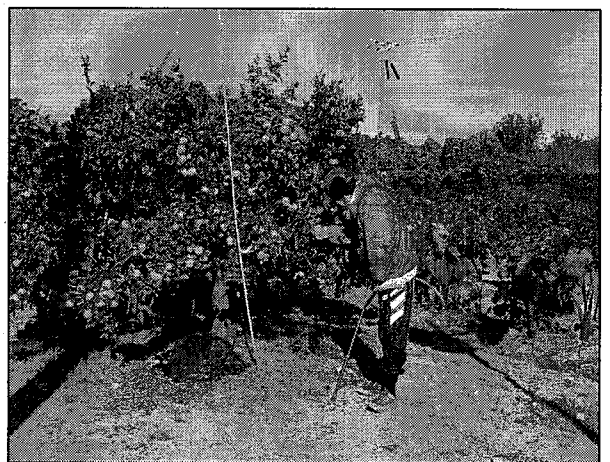
志原の徘徊スタート



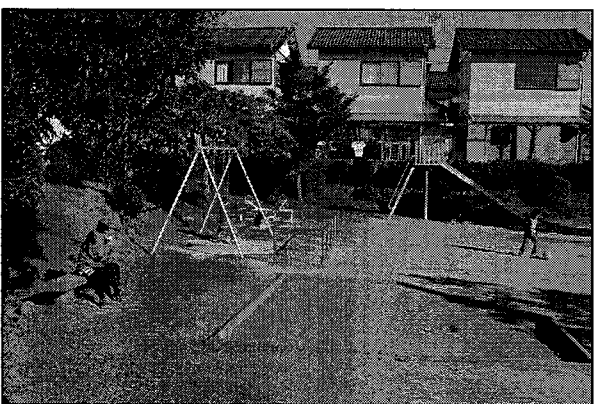
スーパーの前で一休み



声を掛けていただいた方にアンケートをお願いする



みかんは盗っていません

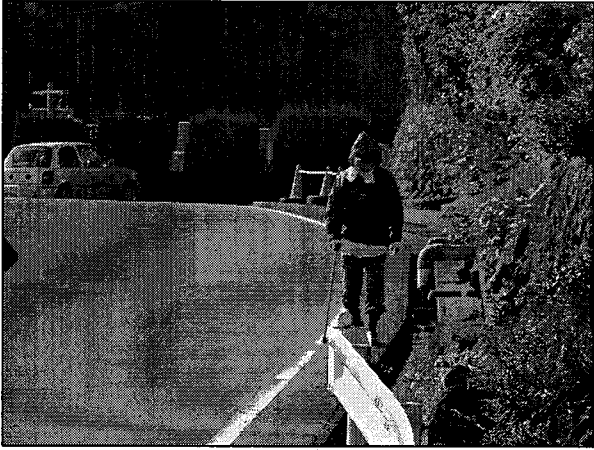


子供たちを公園で見ている様子

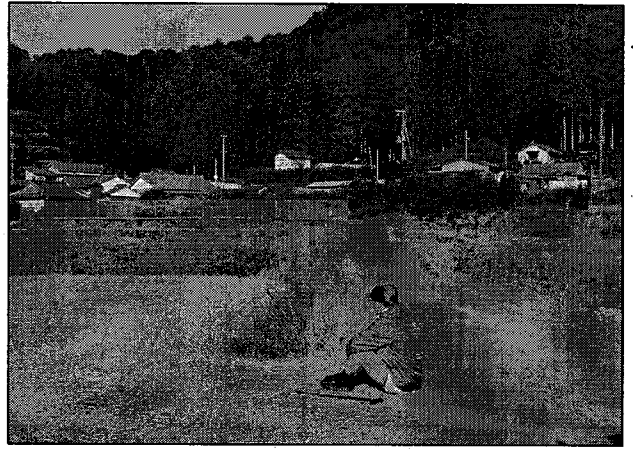


住民の方に声を掛けてもらいました。

神木地区の徘徊している様子



神木の徘徊スタート



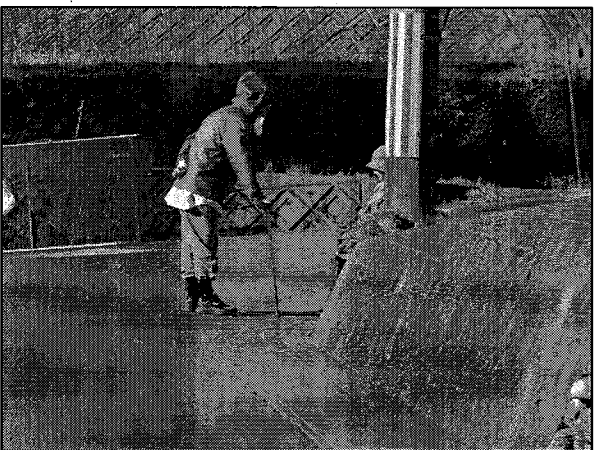
疲れて座り込んでいます。



徘徊しているところを発見！



住民の方に声を掛けていただきました。



声を掛けていただいた様子



アンケートのお願い